

# 株式会社 JERA による不当な広告の中止勧告の申立（要旨）

特定非営利活動法人気候ネットワークと一般社団法人 JELF（日本環境法律家連盟）は 2023 年 10 月 5 日、公益社団法人日本広告審査機構に対し、株式会社 JERA によるアンモニア混焼石炭火力発電に係る「CO<sub>2</sub>の出ない火」等とする広告の中止の勧告をするよう申し立てた。以下は申立書の要旨である。

## 第 1 申立の趣旨

株式会社 JERA（以下、JERA という）は、アンモニア混焼石炭火力発電を「CO<sub>2</sub>が出ない火」による発電と表示する広告を出している。

しかし、石炭火力におけるアンモニア混焼は CO<sub>2</sub>排出削減効果がほとんどなく、「CO<sub>2</sub>が出ない」ものではない上、高コストで、消費者にとって気候変動対策として望ましい電気とはいえない。

JERA は、具体的根拠を述べることなく、CO<sub>2</sub>削減効果を過度に強調し、あいまいな表現を用いることによって、アンモニア混焼による火力発電（とりわけ石炭火力発電）は CO<sub>2</sub>排出がない火力発電であり、その発電による電気が環境に配慮された電気であると消費者に誤認させ、あわせて JERA が地球温暖化防止のために画期的排出削減を行う事業者であるとの誤った印象を消費者に与えている（すなわち、JERA による広告は「グリーンウォッシング」の一例である）

そこで、特定非営利活動法人気候ネットワーク（以下「気候ネットワーク」という）及び一般社団法人 JELF（日本環境法律家連盟）（以下「JELF」という）は、JERA によるこれらの広告は景品等表示法及び環境表示ガイドラインにも抵触するものであるため、これらによる広告を中止し、今後、同様の広告を行わないよう勧告されるよう申し立てる。

## 第 2 申立の理由

### 1 本申立に係る JERA の広告について

(1) 広告・表示について  
別紙参照。

(2) アンモニア混焼石炭火力発電について  
石炭火力発電所で石炭にアンモニアを混ぜて燃やして発電をする方法。

### 2 国内外の CO<sub>2</sub>排出削減対策について

(1) 国際的枠組み  
ア 気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第 5 次評価報告書（2013 年

～14年)及び第6次評価報告書(AR6)(2021年～23年)  
イ パリ協定(2016年発効):地球の平均気温の上昇を、産業革命前から2℃を十分下回り、1.5℃にも努力を追求することを目的とする  
ウ グラスゴー気候合意(2021年11月のCOP26にて採択):世界

5

は1.5℃を目指す決意と、そのために、世界全体で2030年までにCO<sub>2</sub>排出量をほぼ半減させ、2050年までにカーボンニュートラルを実現する必要があることを確認

エ IPCC AR6 統合報告書(2023年4月):1.5℃を実現するためには、CO<sub>2</sub>の排出量を2035年までに65%削減する必要があると明言

10

- (2) 気候変動は人権を脅かしており、2019年12月21日オランダ最高裁判決などで、危険な気候変動を防止するために科学が求める水準での国と大排出事業者の排出削減は法的義務とされてきている。

(<https://www.kiconet.org/info/publication/Urgenda-climate-case> 他)

15

- (3) 日本政府の排出削減目標

ア 「2050年カーボンニュートラル」宣言(2020年10月)

イ 地球温暖化対策計画(2021年10月):①2030年度において温室効果ガス46%削減(2013年度比)を目指す及び②エネルギー起源のCO<sub>2</sub>については、2030年度において温室効果ガス45%削減(2013年度比)とする。

20

### 3 JERAによるアンモニア混焼石炭火力発電の問題点について

- (1) アンモニア製造過程等で大量のCO<sub>2</sub>を発生

発電部門でのアンモニアの利用では、燃焼時にはCO<sub>2</sub>を発生しないものの、化石燃料由来の水素とハーバー・ボッシュ法によるアンモニア製造過程を含むそのライフサイクル全体において大量のCO<sub>2</sub>を出す(アンモニアの製造工程で1トンのアンモニア製造にあたり約1.9トンのCO<sub>2</sub>が発生する)

25

- (2) JERAによる説明の不備

JERAは、2030年までのアンモニア混焼対象の発電所や混焼開始時期、その規模などを明らかにしていない

30

- (3) 高コストのCO<sub>2</sub>回収

水素・アンモニア製造工程でCCS利用を想定するとしても、その時期は不明であり、IPCCは90%のCO<sub>2</sub>回収率を求めているところ、現状の二酸化炭素回収・貯蓄技術(CCS)のCO<sub>2</sub>回収率は60～70%である上、CCSは高コストであること(現在、石炭火力発電所に設置されているCCS

35

はカナダの 10 万 kW の発電 1 か所のみ)

#### (4) 世界的な 1.5°C 目標の削減経路と不整合

アンモニア混焼火力発電は開発中の技術によるものであり、JERA の「ゼロエミッション火力」は 2030 年頃に一部の発電所で 20% 混焼する程度の計画に過ぎず、その場合も、80% は石炭使用であり、1.5°C 目標と整合せず、適切な気候変動対策とはいえない。

#### (5) 国際社会からの批判

「アンモニア混焼は世界にとって有効な手段ではない。」(IPCC 議長ジム・スキーン氏、2023 年 8 月 8 日毎日新聞のインタビュー記事より)

「アンモニアや水素を化石燃料と混焼する日本の構想については、既存の火力発電を維持してエネルギー転換の『先延ばし』につながる」(米国気候変動問題担当特使ジョン・ケリー氏、2023 年 4 月 19 日毎日新聞より)

### 4 グリーンウォッシング及び気候広告監視について

#### (1) グリーンウォッシングについて

「事実ではない、見せかけの環境配慮」のことをいい、会社や製品、活動を実際よりも環境に配慮したものとして描写するもの。

#### (2) 日本における気候関連広告に関連する法制

ア 消費者契約法 (第 2 条 5 項、第 7 条 2 項)

イ 不当景品類及び不当表示防止法 (景品法) (第 5 条 1 項 1 号)

ウ 環境表示ガイドライン

#### (3) JARO におけるグリーンウォッシング広告監視の役割

「消費者に迷惑や被害を及ぼすウソや大げさ、誤解をまねく広告を社会から無くし、良い広告を育む活動を行っています。」(ホームページより)。

広告監視における審査基準：①公正で真実なものでなければならない、②その受け手に不利益を与えることのないものでなければならない、③関係法規と社会秩序を守るものでなければならない。

### 5 JERA の広告の問題点

#### (1) 景表法及び環境表示ガイドライン違反

ア 「CO<sub>2</sub>が出ない火」、「ゼロエミッション火力」は事実と反し、かつ、時期等の内容があいまいで、重要な事実が告げられていないこと

イ アンモニア製造・輸送時等における CO<sub>2</sub>排出への言及を欠いていること

ウ 国際的な目標と整合しない計画しかないにもかかわらず、あいまいな表現によって気候変動対策が十分にとられていると消費者を誤認させる表示となっていること

#### (2) アンモニア燃料によるゼロエミッション火力が達成できない場合の環境

リスクの説明不足により、消費者は、

ア JERA の電気を環境に優しい電気と誤認して JERA が発電した CO<sub>2</sub> を大量に排出して発電された電気を使い続けてしまうこと

5

イ より環境への影響が小さい、再生可能エネルギーを中心に小売を行うような新電力会社への契約変更の機会を失うこと

ウ JERA の石炭火力発電による大量の CO<sub>2</sub>排出が継続し、温暖化をより推進させること

以上

(別紙)

本申立に係る広告・表示のキーメッセージ・キービジュアル一覧

■対象1 2021年版CM(30秒)

[https://www.jera.co.jp/news/notice/20210409\\_661](https://www.jera.co.jp/news/notice/20210409_661)

5 CM「発電の常識をかえてみせる」篇(30秒)

ホームページ記載(テレビ広告、インターネット広告も同内容)



ナレーション:

「絶対、かなわない。

10 絶対、とどかない。

絶対、実現できない。

絶対、達成できない。

絶対なんて誰が決めた

CO<sub>2</sub>が出ない火をつくる。

15 JERAはゼロエミッション火力と再生可能エネルギーで2050年CO<sub>2</sub>排出ゼロに挑戦します。

発電の常識を変えてみせる。」

## ■対象2 2023年版ブランドムービー

[https://www.jera.co.jp/news/notice/20230330\\_1399](https://www.jera.co.jp/news/notice/20230330_1399)

### ■NEW WORLD. NEW ENERGY. ブランドムービー (113秒)

ナレーション：

5 「世界は変わった。エネルギーも変わる。その変化は、かつてないほど鮮烈だ。化石燃料だけに頼る時代は終わった。大国だけがエネルギーを大量に消費する時代は終わった。従来の延長線上でエネルギーを考える時代は終わった。

私たちはもう動きだしている。新しい世界へ向けて。

10 燃やしてもCO<sub>2</sub>が出ない火。化石燃料に代わる新しいエネルギー源で火力発電のゼロエミッション化に挑戦する。急速に成長するアジアを中心とした国々に最適なクリーンエネルギーの選択肢を提供する。

15 今、未来がますます見えにくくなっている時代のなかで、世界中に広げた力を結集して、人々のかけがえのない暮らしを守り続ける。私たちは挑戦し続ける。

一人も取り残すことなく、すべての人がクリーンエネルギーを手に入れられる世界をつくるために。今こそ、やらなきゃだめなんだ。」

### ■NEW WORLD. NEW ENERGY. 「ゼロエミッション火力への挑戦」篇 (30秒)

20 ナレーション：

「電気で動けばCO<sub>2</sub>は出ない。その電気を作るときにCO<sub>2</sub>は出る。

化石燃料に代わる新エネルギー源、燃やしてもCO<sub>2</sub>が出ないアンモニアから、ゼロエミッション火力発電への挑戦、はじまる。

世界は変わった。エネルギーも変わる。

25 今こそ、やらなきゃだめなんだ。」

## ■対象3 媒体 (225) 「石炭火力とアンモニア」篇 - YouTube

(解説動画：「2050年 CO<sub>2</sub>排出ゼロに挑戦」)

ナレーション：

30 「安定した発電が可能な火力発電のなかでも、石炭火力発電は世界的にみればまだまだ主力な発電方式です。

35 石炭火力発電は、細かく砕いた石炭を燃やした熱で蒸気をつくり、タービンという機械を回して発電します。以前は石炭を燃やしたときに発生する煤塵などの有害物質が問題になりましたが、今ではそれらを取り除いています。しかし、地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>は変わらず出してしまう。

そのCO<sub>2</sub>を減らすために注目されているのがアンモニアをまぜて燃やす

混焼という方法です。アンモニアは燃えても CO<sub>2</sub>が出ません。そのうえ、石炭と相性がよいため、アンモニアと石炭を混ぜて燃やすことで、発電量はそのままに CO<sub>2</sub>を減らすことができるのです。

5 さらに現在の設備を使用しながら混焼を進めていけるので、多額の費用がかからないこともいいところの一つです。そして混ぜるアンモニアを徐々に増やしていき、最終的にはアンモニアのみでの発電を目指しています。アンモニアは今も肥料などを中心に世界で利用されていますが、発電用として使うには、さらに大量のアンモニアが必要になります。JERA は持っている技術やノウハウを生かして大量のアンモニアを安く安定して  
10 調達できるように取り組んでいきます。」